

EU Indicators

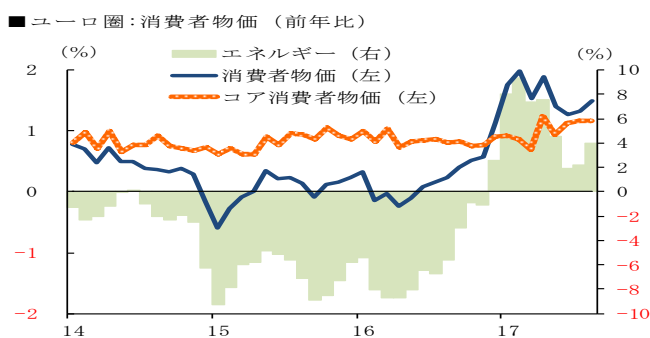
欧州経済指標コメント：8月ユーロ圏消費者物価(速報)

発表日：2017年8月31日(木)

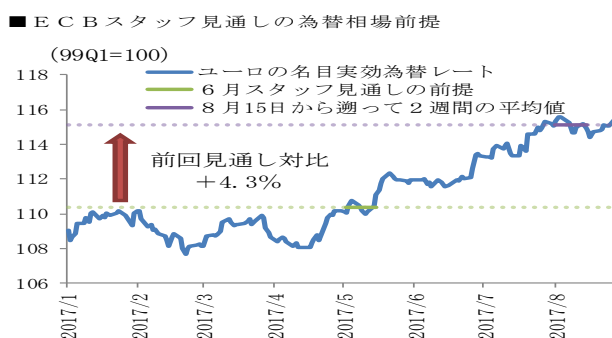
～リフレの力を確認～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

- 8月のユーロ圏の消費者物価の速報値は前年比+1.5%と前月の同+1.3%から加速。速報段階で入手可能な内訳は、食料・アルコール飲料・たばこ(前月：同+1.4%→今月：同+1.4%)、コア物価(同+1.2%→同+1.2%)が前月から不変にとどまった一方、エネルギー(同+2.2%→同+4.0%)の上昇率が再加速し、全体の計数を押し上げた。6月中旬をボトムに原油先物価格が底入れしていることや、前年同月のエネルギー価格の下落率が大きかったことによる反動に助けられた面もある。
- 暦要因や単価の大きい耐久財がコア物価の攪乱要因となっているとみられたが、7月に予想された旅行関連支出の反動減が確認されず、8月のコア物価も四捨五入前で僅かながら一段と加速するなど(同+1.16%→同+1.18%)、物価の基調は底堅さを増している。中期的な物価安定目標には届かないものの、秋のテーパリング決定を控え、物価の上方シフトをECBは歓迎することだろう。
- 9月7日のECB理事会に合わせて発表される新たなスタッフ見通しでは、原油価格の想定が予測期間を通じて1.0~1.5ドル/\$ほど上方修正される一方、名目実効為替レートが6月見通し対比で約4%上方修正される模様。前回見通し対比でECBの景気認識は上方修正されている可能性が高く、原油価格の上方修正と相俟って、ユーロ高による物価の下押し圧力がある程度相殺することが予想される。それでも2018~19年の消費者物価は0.1~0.2%ポイント程度の下方修正は避けられず、この点からも9月は政策議論の検討開始にとどめ、10月に来年以降のテーパリング決定との見方を維持する。



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
 出所：Eurostat



出所：Thomson Reutersより第一生命経済研究所が作成

ユーロ圏の消費者物価 (%)

	2016		2017			2017							
	3Q	4Q	1Q	2Q	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
消費者物価 (前期比)	0.3	0.4	0.6	0.1	0.4	0.3	0.2	-0.1	0.2	-0.1	0.0	0.1	0.2
消費者物価 (前年比)	0.3	0.7	1.8	1.5	1.1	1.8	2.0	1.5	1.9	1.4	1.3	1.3	1.5
コア消費者物価 (前年比)	0.8	0.8	0.8	1.1	0.9	0.9	0.9	0.7	1.2	0.9	1.1	1.2	1.2
食料/アルコール/たばこ (前年比)	1.1	0.8	2.0	1.5	1.2	1.8	2.5	1.8	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4
食料 (前年比)	0.9	0.5	2.1	1.3	1.1	1.8	2.7	1.7	1.3	1.4	1.2	1.1	-
アルコール (前年比)	0.9	0.9	0.6	0.6	0.7	0.5	0.6	0.9	0.3	0.9	0.6	0.8	-
たばこ (前年比)	2.3	2.3	2.7	3.2	2.3	2.5	2.7	2.9	3.5	3.0	3.1	3.2	-
エネルギー (前年比)	-5.1	0.2	8.2	4.6	2.6	8.1	9.3	7.4	7.6	4.5	1.9	2.2	4.0

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。